論作文産出活動方略重視度合いと産出文章得点との関連の検討

—論作文採点観点に関連した産出方略重視度合いに着目した検討—

崎濱秀行

(阪南大学経済学部)

キーワード: 論作文産出 (活動) 方略重視度合い・文章採点観点に基づいた産出方略・産出文章得点

The relationship between emphasis on strategies of essay writing and text scoring

Hideyuki SAKIHAMA

(Faculty of Economics, HANNAN Univ.)

Key words: emphasis on strategies of essay writing, strategies based on text scoring, text scoring

目 的

本研究の目的は、大学初年次生を対象とした調査結果を基に、論作文産出活動方略（以下、産出方略）重視度合いと書き手の産出文章得点との関連を検討することである。本研究では特に、文章採点観点に関連した産出方略重視度合いと産出文章得点との関連を検討する。

崎濱（2011a）では大学初年次生を対象に、質問紙調査を通じて書き手自身の論作文産出方略に関する重視度合いを尋ねた。また、400～600 字程度の論作文課題で得られた文章について、JESS（石岡,2003）による採点を行った上で、産出方略重視度合いとの関連を検討した。その結果、「簡潔な語句を使う」「説明の順序を入れ替える」等の 15 項目において、産出文章の論理構成得点と書き手の産出方略重視度合いとの間の相関が有意であった。また、崎濱（2011b）では、産出方略の構造を検討したところ、「表記因子」「内容・構成因子」の 2 側面が存在することを見出した。さらに、表記因子の方が論理構成得点に影響を与えていたことが示された。

しかしながら、崎濱（2011a,2011b）では、崎濱（2010）において用いられた調査項目を使用して検討を行っており、JESS の採点観点に基づいた項目は設定されていなかった。産出方略重視度合いの高さが産出文章得点に及ぼす影響を検討する上では、崎濱（2010）のような検討に加え、文章採点に用いた JESS の採点観点を踏まえた項目の設定、および設定項目が産出文章の採点結果に及ぼす影響について検討を加えることなども必要であろう。

本研究ではその一環として、JESS の「修辞得点」「論理構成得点」「内容得点」の算出に関わる産出方略の項目を設定の上、各側面の文章得点との関連について検討を加えた。

方 法

参加者 大阪府内の大学 1 年生 150 名（男性 127 名、女性 23 名、平均年齢 18.4 歳）

材 料 (1)文章採点観点に基づいた論作文産出方略の重視度合いをたずねる質問紙（7 項目 7 件法）。7 項目の内訳は、修辞得点に関わる項目として 4 項目（1 一文あたりの長さを短くする、3 長くて難しい言葉を使う、5 できるだけ漢字を使う、7 同じ内容のことを書く場合でもできるだけちがう言葉で言いかえる）、論理構成得点に関わる項目として 2 項目（2 文章どうしをうまくつなげる、4 質問文（問題文）と関係のある内容を選ぶ）、

*調査実施やデータ提供にご協力下さいました、阪南大学非常勤講師 岸本千秋先生・廣坂直子先生・松本朋子先生に厚く御礼申し上げます。本研究は平成 21 年度－24 年度科学研究費補助金（若手研究 B 研究課題番号 21730533）の補助を受けて行われました。

内容得点に関わる項目として 1 項目（6 意見の理由や意見が正しいことの根拠をくわしくのべる）であった。

(2)論作文課題（テーマは、「子どもの運動会において写真撮影やビデオ撮影を禁止することは是非」「学習指導において集団指導と個人指導のどちらが良いか」「自身で設定したテーマ」のいずれかにおける意見文作成。400～600 字程度）

手続き 本研究は、初年次教育科目「文章表現の基礎」の一部を利用して行われた。まず参加者に対し、文章を書くときにすることとして 7 項目の各事項がどの程度当てはまるかについて、1（まったく当てはまらない）～7（非常によく当てはまる）までの 7 件法での回答を求めた（2011 年 6 月）。質問紙配布や回収は授業担当者を通じて行われた。

次に、400～600 字程度の論作文課題が行われ、授業担当者より未採点の答案の提供を受けた（2011 年 6 月）。その後、参加者への各データ使用可否の問い合わせ、使用可の者（147 名）のデータの電子データ化を経て、各々のデータを以後の分析に用いた。

なお、質問紙調査で得られた回答については、JESS による文章採点に関わる観点を踏まえた 7 項目（TABLE1 参照）を分析対象とした。また、産出文章の得点は JESS（石岡，2003）による採点（0～6 の 7 段階）を行った。

結果と考察

書き手の産出方略の構造を検討するため、質問紙調査で得られた 7 項目の得点と文章採点観点との相関係数を産出した（結果は TABLE 1 参照）。その結果、採点観点に基づいた産出方略得点と文章得点のいずれの側面間においても相関が有意であり、すべて正の相関を示した。本研究では、質問紙項目作成にあたり、修辞/論理構成/内容の 3 観点に対して計 7 項目を設定したが、対応する側面に関わらず、全ての項目において各採点観点との関連が見られた。このことから、本研究に参加した大学初年次生の場合、各々の項目の重視度合いが高いほど文章の得点が高くなるという傾向が見られることが考えられる。また、自身が有している産出方略重視度合いにおいて、「修辞/論理構成/内容」といった分類がなされていないことが考えられる。そこで、今後は、崎濱（2010, 2011a）で使用された産出方略の構造の再検討が必要となるであろう。

TABLE1 産出方略/文章得点の平均点および産出方略一文章得点間の相関係数

項 目	平均点 (標準偏差)	修辞得点	論理構成得点	内容得点
1 一文あたりの長さを短くする	4.18(1.28)	.41***	.40***	.34***
2 文章どうしをうまくつなげる	4.71(1.18)	.65***	.47***	.53***
3 長くて難しい言葉を使う	3.48(1.53)	.47***	.18*	.26***
4 質問文（問題文）と関係のある内容を選ぶ	4.86(1.09)	.54***	.49***	.50***
5 できるだけ漢字を使う	5.66(1.23)	.36***	.42***	.46***
6 意見の理由や意見が正しいことの根拠をくわしくのべる	4.73(1.13)	.68***	.59***	.58***
7 同じ内容のことを書く場合でもできるだけちがう言葉で言いかえる	4.69(1.36)	.63***	.40***	.59***
修辞得点	4.68(0.82)			
論理構成得点	4.53(0.82)			
内容得点	4.60(0.77)			

***: $p < .001$ *: $p < .01$